

保育者養成課程における紙芝居 —学生のアンケート調査を通して—

鬢 櫛 久美子
野 崎 真 琴

1. はじめに

「保育のなかの紙芝居」というテーマを掲げ、本プロジェクトは研究を進めてきた。紙芝居に関しては、先行研究が少ないが、紙芝居の歴史を研究する中から、紙芝居の特性として、共感を呼ぶものであること、感化力の強いものであることは、街頭紙芝居として平絵の紙芝居が流行し始めた当初から、いつの時代も変わらずに認められるものであった。

ことに、第2次世界大戦中の紙芝居の活用は、この特性を大いに利用したものである。戦時下の紙芝居について、雑誌『紙芝居』の検討を行った結果、国の要請と援助を受けて、紙芝居研究が他の時代にもまして盛んにおこなわれていたことも明らかとなった。¹⁾

紙芝居の特性に注目すると、現代社会においても紙芝居の教育メディアとしての価値は高いものであると考える。もちろん国策紙芝居活用の目的とは異なるものであることは言うまでもない。

現代社会は、人々のかかわりが希薄化しているといわれている。ことにパソコンやケータイ等のコミュニケーションツールの進化は、時間、空間を超えて人々を繋ぎ、敢えて生のかかわりをしなくてもよい状況を作り出している。このような状況下で、人とかかわる力、コミュニケーション能力が減退していることが問題とされている。

公共の場で、ケータイ画面をのぞき込み、目の前の人を物のように無視したり、人々のかかわりに摩擦が生じ、極端な場合は犯罪行為につながることもある。また、目の前の人とうまく会話する機会の減少は、語彙不足になったり、話す力の低下となり、言語による自己表現が十分に行えないことが問題行動を生じさせているとも言われている。コミュニケーション能力を高めることは、保育の対象である幼児期の子どもにも、その子ども

を育てることを目指す、養成課程の学生にも重要なことである。

大学や短期大学の設置基準の一部が平成22年2月に改正され、キャリア教育を教育課程の中に盛り込むことが義務化された。社会人として必要な能力の一つとしてコミュニケーション能力を取り上げ特定科目で、学習できるように試みている大学もあるようだ。演じ手と観客、観客相互の直接的な触れ合いによって成立する紙芝居をメディアとして、活用することで、コミュニケーション能力を高めたいと考える。

また、紙芝居を保育者養成課程に導入することは、コミュニケーション能力育成という点に加え、紙芝居活用の方法を習得することで保育者の技能を高め、就職指導、職業支援につながると考える。保育者養成カリキュラムに紙芝居をメディアとして導入する方法を検討していきたい。

本研究においては、保育者養成課程における紙芝居をメディアとして活用するために、養成課程にある学生の紙芝居とのかかわりの実態を調査することを課題とした。本学の学生にアンケート調査をすることで、私どもが教育の対象としている学生が、入学前に紙芝居をどのように経験しているか、紙芝居についてどのような知識をもっているか、また、実際に学内で紙芝居について何らかの学習をしているか等を把握することとした。

2. 調査概要

(1) 調査対象及び調査方法

本学保育科に在学中の1年生及び2年生を対象に、学内においてアンケート調査を行った。調査実施日に欠席した学生を除く、1年生216名、2年生196名の学生を対象にアンケート用紙を配布し記入してもらい、その場で全員より回答を回収した。(回収率100%)

(2) 調査実施日

1年生 2010年7月19日

2年生 2010年7月20日

(3) 調査内容

調査内容は以下の通りである。

①紙芝居とかかわった経験

本学に入学する以前に、紙芝居が演じられるのを見た経験があるかどうか。またその経験がある場合、いつどこで経験したのか。

大学入学後も含めこれまでに、紙芝居を自分で演じたり、作ったり、紙芝居について学んだ経験があるかどうか。またその経験がある場合、いつどこで経験したのか。

②絵本とかかわった経験

本学に入学する以前に、絵本を読み聞かせてもらった経験があるかどうか。またその経験がある場合、いつどこで経験したのか。

大学入学後も含めこれまでに、絵本を自分で読み聞かせたり、作ったり、絵本について学んだ経験があるかどうか。またその経験がある場合、いつどこで経験したのか。

③保育における絵本と紙芝居の使い分けに対する意識

保育の場において、絵本と紙芝居を使い分けるべきであると思うか否か。使い分けるべきであると思う場合、どのように使い分けるべきであるか。またその考えは自分自身のそれであるか、どこかで学んだのか。

具体的なアンケート項目については、文末に資料として添付したアンケート用紙のとおりである。

3. 結果

(1) 入学前に紙芝居が演じられるのを見た経験

1年生では216人中192人で88.9%、2年生では196人中142人で73.5%の学生が、入学前に紙芝居が演じられるのを見た経験があると答えている。

(表1-1-1) 見た時期として最も多かったのは、1、2年生共に「就学前」であり、1年生では133人で61.6%、2年生では95人で48.5%であった。(表1-1-2) 続いて両学年共に「小学生」が多い。また、見た場所については、「幼稚園」や「保育所」と

の答えが一番多く、1年生では145名で67.1%、2年生では89名で45.4%であった。次に多かったのは、両学年共「小学校」であり、1年生では54人で25%、2年生では27人で13.8%であった。(表1-1-3) 「その他」として上げられていたものでは「図書館」が多く、1年生で5人、2年生で9人であった。

一方、入学前に絵本を読み聞かせてもらった経験があると答えた学生は、1年生では192人で88.9%、2年生では165人で84.2%であった。(表1-2-1) 読み聞かせてもらった時期としては、「就学前」との答えが圧倒的に多く、1年生では148人で68.5%、2年生では155人で79.1%に上る。(表1-2-2) 読み聞かせてもらった場所としては、1年生では147人で68.1%、2年生では138人で70.4%が「幼稚園」や「保育所」を上げており最も多い。(表1-2-3) 以上のことは、紙芝居と同様の傾向である。また、紙芝居も、絵本も「小学校」でも見ていたことが分かった。しかし、紙芝居を「家」で見たという学生は1、2年生共に10%に満たないのに対し、絵本を「家」で読み聞かせてもらった学生は、1年生で35.6%、2年生で42.9%もあり、家では紙芝居よりも絵本に親しんでいた傾向があるといえる。

表1-1-1 短大入学以前に紙芝居が演じられるのを見た経験

	ある	ない	合計
1年生	192	24	216
2年生	144	52	196

表1-1-2 紙芝居が演じられるのを見た時期(複数回答)

	就学前	小学生	中学生	高校生	その他
1年生	133	82	12	24	6
2年生	95	42	2	10	1

表1-1-3 どこで紙芝居が演じられるのを見たか(複数回答)

	家	幼稚園	保育所	小学校	中学校	高校	その他
1年生	21	88	57	54	4	8	28
2年生	6	53	36	27	2	2	24

表1-2-1 短大入学以前に絵本を読み聞かせてもらった経験

	ある	ない	無回答
1年生	192	22	2
2年生	165	30	1

表 1-2-2 絵本を読み聞かせてもらった時期 (複数回答)

	就学前	小学生	中学生	高校生	その他
1年生	148	77	10	25	5
2年生	155	59	6	13	0

表 1-2-3 どこで絵本を読み聞かせてもらったか (複数回答)

	家	幼稚園	保育所	小学校	中学校	高校	その他
1年生	77	93	54	69	4	10	13
2年生	84	83	55	45	3	4	16

(2) 紙芝居を演じた経験

紙芝居を演じた経験があるかどうかを尋ねたところ、1年生では89名で41.2%、2年生では173名で88.3%の学生が演じた経験があると答えた。

(表2-1-1) 1年生と2年生との差が大きいですが、これは、本調査時において2年生はすでに大学での保育実習を3期(1年次後期開講の幼稚園教育実習Ⅰ及び保育所保育実習Ⅰ、2年次前期開講の幼稚園教育実習Ⅱ)終了しているが、1年生はまだそれらを経験していない、という両者の違いによるものであることが、後の設問に対する回答から推察できる。つまり、2年生では、いつどこで演じたかとの問いに対して、「大学生」の時期に「実習」でとの回答が圧倒的に多く、大半の学生は、紙芝居を演じた経験を大学入学後の実習でしていることがわかる。(表2-1-2、2-1-3) 実習において紙

芝居を演じた経験があるかどうかを改めて問うたところ、2年生では175人(89.3%)の学生が「ある」と答えており、そのほとんどは大学入学後の「幼稚園教育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習Ⅱ」「保育所保育実習Ⅰ」で経験していることがわかる。(表2-2-1、2-2-2)

1年生については、まだ大学で上記の実習を経験していないため、2年生に比べて紙芝居を演じた経験のある者が少ないのであろう。しかし、89人というのは、予想をはるかに上回る数字だった。この中で、小学、中学、高校の時期と答えたものを合わせると79人にも上る。(表2-1-2) 特に中学、高校の時期においては、「保育体験」「職業体験」等の機会として幼稚園や保育所で演じたというものが多い。(表2-1-3) 2年生でも演じた時期として中学、高校が上っており、演じた場所は1年生と同様の傾向である。しかし、その数が1年生と比べて少ないのは、大学に入学してからの経験の方が記憶に新しいため強く印象に残っており、それまでの経験については回答する際に想起されなかったということも考えられる。1年生と2年生との回答の仕方について推測されるこのような違いは、他の設問においても表れている可能性が考えられる。

表 2-1-1 紙芝居を演じた経験

	ある	ない	無回答
1年生	89	127	0
2年生	173	22	1

表 2-1-2 紙芝居を演じた時期 (複数回答)

	就学前	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	無回答
1年生	4	34	20	25		2	
2年生	1	3	5	5	162		3

表 2-1-3 どこで紙芝居を演じたか (複数回答)

		幼稚園・保育所	家	授業	実習	図書室	図書館	学童など	体験学習	その他
1年生	小学生	1	10	9		4	3	9	1	2
	中学生	13		1		1			5	1
	高校生	11		6			1			3
	大学生									3
2年生	小学生					1		1		1
	中学生	5								
	高校生	2		1					1	1
	大学生			16	155					5

表 2-2-1 実習で紙芝居を演じたことがあるか

	ある	ない	無回答
1年生	32	176	8
2年生	175	21	0

表 2-2-2 いつの実習で紙芝居を演じたか (複数回答)

	実習	中学	高校	教育Ⅰ	教育Ⅱ	保育Ⅰ	保育Ⅱ	施設
1年生	16	19	/	/	/	/	/	/
2年生	6	8	103	125	119	/	/	3

注) 斜線部は調査時において当該実習が実施されていないことを示す。

(3) 紙芝居を作った経験

紙芝居を作った経験となると、「ある」と答えた学生は、1年生では42人で19.4%と、先の演じた経験に比べるとかなり少ない。(表3-1-1) 小学、中学、高校の家庭科、音楽、図工等の授業で取り組んだようだ。(表3-1-2、3-1-3)

2年生については、作った経験があると答えた学生は、59人で30.1%と、1年生と比べると高いが、演じた経験に比べて大変少ない。(表3-1-1) 作った時期及び場所については、演じた時期及び場所と同様に、大学生になってから「授業」で作ったという者が多い。(表3-1-2、3-1-3)

一方、絵本を作った経験については、「ある」と答えた学生は、1年生では82人で38.0%、2年生では119人で60.7%である。(表3-2-1) 両学年ともに、それぞれ紙芝居を作った経験のある学生の数のほぼ2倍である。絵本を作った時期及び場所については、紙芝居を作ったそれらと同じ傾向である。(表3-2-2、3-2-3)

表3-1-1 紙芝居を作った経験

	ある	ない	無回答
1年生	42	172	2
2年生	59	137	0

表3-1-2 紙芝居を作った時期 (複数回答)

	就学前	小学生	中学生	高校生	大学生	無回答
1年生	1	27	8	6	1	0
2年生		8	3	9	36	3

表3-1-3 どこで紙芝居を作ったか (複数回答)

	授業	実習	家	その他
1年生	24		6	4
2年生	25	7	2	2

表3-2-1 絵本を作った経験

	ある	ない	無回答
1年生	82	133	1
2年生	119	75	2

表3-2-2 絵本を作った時期 (複数回答)

	就学前	小学生	中学生	高校生	大学生	その他
1年生	3	28	33	22	2	1
2年生	2	11	8	11	91	

表3-2-3 どこで絵本を作ったか (複数回答)

	授業	家	幼稚園・保育所	図書館	その他
1年生	63	8	3	6	
2年生	112	1			3

(4) 紙芝居について学んだ経験

1年生については、紙芝居の演じ方、作り方を学んだ経験がある学生は、それぞれ25人(11.6%)、22人(10.2%)である。(表4-1-1、4-2-1) 演じ方は、中学、高校の時に「保育園」で学んだというのが比較的多い。(表4-1-2、4-1-3) 先の演じた経験のところで、中学、高校の時期に「保育体験」「職業体験」等で演じた経験が多いことが把握されたが、その経験から演じ方を学んだと自覚し回答していることが考えられる。作り方については、小学、中学、高校の時期に主に授業で学んだようである。(表4-2-2、4-2-3) また、紙芝居の歴史については、ほとんどの学生が学んだ経験がないと答えている。(表4-3-1)

2年生については、紙芝居の演じ方を学んだ経験がある学生は、122人(62.2%)で半数以上に上るが、紙芝居の作り方は25人(12.8%)、歴史は21人(10.7%)とかなり低い。(表4-1-1、4-2-1、4-3-1) どれについても、学んだ時期は「大学生」が多く、そのほとんどは「授業」で学んだようである。(表4-1-1、4-2-1、4-3-1、4-1-2、4-1-3、4-2-2、4-2-3、4-3-2、4-3-3)

表4-1-1 紙芝居の演じ方について学んだ経験

	ある	ない	無回答
1年生	25	187	4
2年生	122	73	1

表4-1-2 紙芝居の演じ方を学んだ時期 (複数回答)

	小学生	中学生	高校生	大学生
1年生	5	4	9	3
2年生	1		4	113

表4-1-3 どこで紙芝居の演じ方を学んだか (複数回答)

		授業	保育園	実習	その他
1年生	小学生	3			2
	中学生		2		1
	高校生	2	3		2
	大学生	3			

2 年生	小学生	1			
	中学生				
	高校生	3		1	
	大学生	101		6	3

表 4-2-1 紙芝居の作り方を学んだ経験

	ある	ない	無回答
1 年生	22	187	7
2 年生	25	169	2

表 4-2-2 紙芝居の作り方を学んだ時期 (複数回答)

	小学生	中学生	高校生	大学生
1 年生	14	5	2	
2 年生	2		3	19

表 4-2-3 どこで紙芝居の作り方を学んだか (複数回答)

		授業	その他
1 年生	小学生	10	
	中学生	4	
	高校生	2	
	大学生		
2 年生	小学生	2	
	中学生		
	高校生	3	
	大学生	16	1

表 4-3-1 紙芝居の歴史を学んだ経験

	ある	ない	無回答
1 年生	6	207	3
2 年生	21	174	1

表 4-3-2 紙芝居の歴史を学んだ時期 (複数回答)

	小学生	中学生	高校生	大学生
1 年生	2		1	2
2 年生	1			20

表 4-3-3 どこで紙芝居の歴史を学んだか (複数回答)

		授業	その他
1 年生	小学生	1	1
	中学生		
	高校生	1	
	大学生	2	
2 年生	小学生	1	
	中学生		
	高校生		
	大学生	20	

一方、絵本に関して学んだ経験については、絵本の読み聞かせ方は紙芝居の演じ方に比べて、両学年とも学んだ経験者がかなり多い。(表4-4-1) また、絵本の作り方も、紙芝居の作り方に比べると、両学年とも学んだ経験者が多い。(表4-5-1) 歴

史に関しては、絵本も紙芝居も、同じように学んだ経験者は少ない。(表4-6-1) 絵本に関して学んだ時期や場所については、紙芝居に関するそれらとほぼ同様の傾向である。(表4-4-2、4-4-3、4-5-2、4-5-3、4-6-2、4-6-3)

表 4-4-1 絵本の読み聞かせ方を学んだ経験

	ある	ない	無回答
1 年生	81	131	4
2 年生	185	9	2

表 4-4-2 絵本の読み聞かせ方を学んだ時期 (複数回答)

	小学生	中学生	高校生	大学生	その他
1 年生	3	6	12	54	1
2 年生				179	

表 4-4-3 どこで絵本の読み聞かせ方を学んだか (複数回答)

	授業	幼稚園・保育所	実習	その他
1 年生	66	3	1	3
2 年生	173		6	2

表 4-5-1 絵本の作り方を学んだ経験

	ある	ない	無回答
1 年生	32	179	5
2 年生	56	133	7

表 4-5-2 絵本の作り方を学んだ時期 (複数回答)

	小学生	中学生	高校生	大学生	その他
1 年生	8	13	13		1
2 年生	1	3	5	41	

表 4-5-3 どこで絵本の作り方を学んだか (複数回答)

	授業
1 年生	27
2 年生	45

表 4-6-1 絵本の歴史を学んだ経験

	ある	ない	無回答
1 年生	4	205	7
2 年生	27	159	10

表 4-6-2 絵本の歴史を学んだ時期 (複数回答)

	就学前	小学生	高校生	大学生
1 年生		1	1	1
2 年生	1	2		22

表 4-6-3 どこで絵本の歴史を学んだか (複数回答)

	授業	その他
1 年生	3	
2 年生	20	1

1年生では、紙芝居を演じた経験がある学生が41.2%であるのに対し、演じ方について学んだ経験がある学生は11.6%である。2年生では、88.3%であるのに対し、62.2%である。一方、絵本については、1年生では、読み聞かせの経験がある学生が115人で53.2%であるのに対し、読み聞かせ方を学んだ経験がある学生は81人で37.5%である。2年生では、192人で98.0%であるのに対し、185人で94.4%である。(表4-7-1、4-4-1)絵本は、読み聞かせた経験がある学生の割合に、読み聞かせ方を学んだ学生の割合に近いが、紙芝居は、演じた経験がある学生の割合に対して、演じ方を学んだ学生の割合は低い。紙芝居は、特に演じ方を学ばなくとも、気軽に手軽に演じられていることが考えられる。

表4-7-1 絵本の読み聞かせをした経験

	ある	ない	無回答
1年生	115	99	2
2年生	192	3	1

表4-7-2 絵本の読み聞かせをした時期(複数回答)

	就学前	小学生	中学生	高校生	大学生	その他
1年生	9	30	25	36	6	4
2年生	1		5	3	181	

表4-7-3 どこで絵本の読み聞かせをしたか(複数回答)

	幼稚園・保育所	家	授業	実習	図書館	その他
1年生	43	39	10		4	13
2年生	5	8	5	181		5

(5) 保育における紙芝居と絵本の使い分けに対する意識

保育の場で紙芝居と絵本を使い分けるべきかを問うたところ、1年生では95人で44.0%、2年生では69人で35.2%の学生が使い分けるべきだと考えている。(表5-1)どのように使い分けるかについては、対象となる子どもの人数による、といった回答が両学年とも最も多く、1年生で43人(19.9%)、2年生で24人(12.2%)いた。特に1年生では、使い分けるべきだと答えた学生95人のうちの45%がそのように考えていた。

これら使い分け方に関する考えについては、学習した結果として答えたのではなく、大半の学生が、紙芝居と絵本を演じてもらったり、読み聞か

せてもらった経験や、自分が、演じたり、読み聞かせをした経験から、感じ取った結果のようである。(表5-2)使い分けるべきであるということに関しては、経験的に答えることができて、その理由までは、十分に回答できない。

表5-1 保育の場で紙芝居と絵本を使い分けるべきだと思うか

	ある	ない	無回答
1年生	95	107	14
2年生	69	120	7

表5-2 どのように使い分けるべきか(複数回答)

	人数	特別な時	場面	特色	時間	年齢	対象の状態	場所	ねらい	その他
1年生	43	8	7	6	6	6	3			8
2年生	23	1	9	10	4	1	2	8	6	6

表5-3 14の回答は自分の考えかどこかで学習したのか

	自分で	学習した	無回答
1年生	79	4	1
2年生	45	10	4

4. おわりに

本調査では、学生のこれまでの紙芝居とのかかわりの実態を探る上で、保育の場で紙芝居と同様に活用される絵本については、学生がこれとどのようにかかわってきたのかという視点をもち調査・分析を行った。そこでは、常識的な考えから推測できることとたがわぬ結果が出たものもある。たとえば、紙芝居が演じられるのを見た経験や絵本を読み聞かせてもらった経験は、幼児期に多いのではないだろうかなどであるが、常識を裏づける調査結果が得られ、確認できたことには意味があると考えられる。

保育者養成課程にある本学の学生は、紙芝居と絵本とで比較をすれば、概して紙芝居よりも絵本とのかかわりの経験を多くしてきており、入学後の学習においてもその傾向がみられた。しかしながら、紙芝居についても予想以上に多くの学生が、紙芝居を演じた経験をしており、特に2年生の調査結果からは、短大入学後主な実習を3期終えた段階で、約9割の学生が実習で紙芝居を演じた経験をしていたことがわかった。ところが、その演じた経験をした者の割合の高さに対して、演じ方について学んだ経験がある者の割合は低いも

のであった。さらに、紙芝居の作り方や歴史について学んだ経験がある学生は、1、2年生ともに、それぞれ1割程度の低さであった。紙芝居と絵本の使い分けについても、実習等でそれらを扱った自身の経験から、使い分けるべきだと感じてはいるが、その理由について十分説明できるほど紙芝居について理解しているわけではないことが窺い知れた。

本調査では、多くの学生が就学前に幼稚園や保育所で紙芝居が演じられるのを見た経験があると答えていたが、このことから、保育現場では紙芝居を保育に活用する機会がよくあることが改めて理解される。したがって、保育者養成課程においては、学生が、紙芝居についてその保育における教材・教具としての意義を理解するとともに、それを扱う実践力を養うことができるような、カリキュラム上の工夫が必要であると思われる。

紙芝居の作り方を学ぶことは、保育教材・教具としての紙芝居と絵本の特徴の違いに対する理解を深め、また語彙力や自己表出力を培うことが期待できる。語彙力や自己表出力は、コミュニケーション能力を形成する重要な要素である。したがって、保育の対象である子どもにとっても、その子どもの発達援助に携わる保育者を目指す学生にとっても、養われることが望まれるものである。

なお、本調査における内容は、これまでに経験があるかどうかという調査項目がほとんどであるが、経験を問いとした場合、各自が経験を記憶しているかどうか、印象的な出来事として覚えているかどうかにより違いが出てくる。つまり、学生にとって記憶にとどめられた経験となっているかどうかを問うたことになる。この点を、十分に考慮し検討すべきであり、特に1年生と2年生を比較する場合には、注意が必要かと思われる。したがって、来年度、現在の1年生が2年生になった時点で、同じ調査を試みる必要があるだろう。また、より広い地域にわたる、他の保育者養成校の学生に対しても調査を実施していくことで、保育者養成課程にある学生の紙芝居とのかかわりの実態についてより明らかにし、保育者養成カリキュラムに紙芝居をメディアとして導入する上での示唆を得たいと考える。他の養成校に対する調査も今後の課題である。

【注】

- 1) 鬢櫛久美子、野崎真琴「戦時下における紙芝居に関する議論—雑誌『紙芝居』を中心に—」『名古屋柳城短期大学研究紀要』No.31 2009

資料

学籍番号	名前
------	----

紙芝居・絵本に関するアンケートです。以下の問いに答えてください。

1. 本学に入学以前に、紙芝居が演じられるのを見たことがありますか。どちらかをまるで囲んでください。
[①有 ②無]

2. 1の問いに①有と答えた方にお聞きします。それは、いつ、どこで、どのくらい見ましたか。該当する番号を選んで組み合わせてください。
 答えの例② - ⑦(公園) - ②のような答え方で、複数回答可。
 いつ：①就学前 ②小学生の時期 ③中学生の時期 ④高校生の時期 ⑤その他()
 どこで：①家 ②幼稚園 ③保育所 ④小学校 ⑤中学校 ⑥高校 ⑦その他()
 どのくらい：①1回 ②数回 ③日常的に頻繁に

3. 紙芝居を自分で演じたことはありますか。有るのならそれはいつ、どこで演じたのですか。
 ① 有 (いつ/どこで)
 ② 無

4. 紙芝居を作ったことがありますか。有るのならそれはいつ、どこで作ったのですか。
 ① 有 (いつ/どこで)
 ② 無

5. 紙芝居について、次の(1)から(3)に関して学んだことがありますか。有るならば、それはいつどこで学んだのですか。(授業での学習ならば、科目名を記してください)。
 (1) 演じ方
 ① 有 (いつ/どこで)
 ② 無
 (2) 作り方
 ① 有 (いつ/どこで)
 ② 無
 (3) 歴史について
 ① 有 (いつ/どこで)
 ② 無

6. 実習で、紙芝居を実際に演じたことがありますか。該当するものをまるで囲んでください。
 ① 有 (中学 高校 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 保育所実習Ⅰ 保育所実習Ⅱ 施設実習)
 ② 無

7. 本学に入学以前に、絵本を読み聞かせてもらった経験はありますか。どちらかをまるで囲んでください。
[①有 ②無]

8. 7の問いに①有と答えた方にお聞きします。それは、いつ、どこで、どのくらい見ましたか。該当する番号を選んで組み合わせてください。

答えの例② - ⑦(公園) - ②のような答え方で、複数回答可。

いつ：①就学前 ②小学生の時期 ③中学生の時期 ④高校生の時期 ⑤その他()

どこで：①家 ②幼稚園 ③保育所 ④小学校 ⑤中学校 ⑥高校 ⑦その他()

どのくらい：①1回 ②数回 ③日常的に頻繁に

9. あなた自身が絵本を読み聞かせたことはありますか。有るのならそれはいつ、どこで読み聞かせたのですか。

① 有 (いつ/どこで)

② 無

10. 絵本を作ったことがありますか。有るのならそれはいつ、どこで作ったのですか。

① 有 (いつ/どこで)

② 無

11. 絵本について、次の(1)から(3)に関して学んだことがありますか。有るとしたらそれはいつどこで学んだのですか。(授業での学習ならば、科目名を記してください。)

(1) 読み聞かせ方

① 有 (いつ/どこで)

② 無

(2) 作り方

① 有 (いつ/どこで)

② 無

(3) 歴史について

① 有 (いつ/どこで)

② 無

12. 実習で、絵本を実際に読み聞かせたことがありますか。

① 有 (中学 高校 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 保育所実習Ⅰ 保育所実習Ⅱ 施設実習)

② 無

13. 保育の場で使用する場合、紙芝居と絵本を使い分けるべきだと思いますか。

①はい ②いいえ

14. 13に「はい」と答えた方にお尋ねします。どのように使い分けるべきだと思いますか。

15. 14の考えは、あなた自身の考えですか。それともどこかで学習したのでしょうか。

授業であれば、科目名で答えてください。

① 自分で考えた

② 学習した ()

ご協力ありがとうございました。

Training Course of Early Childhood Educators and “Kamishibai”

Bingushi, Kumiko*

Nozaki, Makoto*

紙芝居を保育者養成課程に導入することは、今日キャリア教育においても必要とされるコミュニケーション能力育成という点に加えて、紙芝居活用の方法を習得することで保育者の技能を高め、就職指導、職業支援につながると考える。保育者養成カリキュラムに紙芝居をメディアとして導入する方法を検討していきたい。

そこで本研究は、保育者養成課程において紙芝居をメディアとして活用する方途を探る為に、養成課程にある学生の紙芝居とのかかわりの実態について調査することを課題とした。具体的には、本学に在学中の学生にアンケート調査を実施し、紙芝居が演じられるのを見た経験、自身で演じた経験、紙芝居について学んだ経験など、紙芝居とのかかわりをどのように経験してきたのかについて明らかにすることを試みた。

調査結果からは、多くの学生は、紙芝居を演じた経験をしていること、特に本学入学後における実習でその経験をしていることがわかった。しかし、演じた経験がある学生の割合に対して、演じ方について学んだ経験がある学生の割合は低く、紙芝居の作り方等紙芝居について学んだ経験は少ないことが明らかとなった。

本調査の結果をもとに、紙芝居を保育者養成カリキュラムにいかに関位置付けていくかについて検討していきたい。

キーワード: 紙芝居 (Kamishibai), 保育者養成課程 (training course of early childhood educators), カリキュラム (curriculum), コミュニケーション (communication)